

3年次編入についてのQ&A

I. 編入について

Q. 求める人物像について

A. 基本的には知識情報・図書館学類の教育内容に興味を持ち、やる気のある学生なら大歓迎です。われわれが想定している編入志願者は、①類似した領域からきて、そこで習得した知識・技術を深めたい、②異なる領域からきて、そこで習得した知識・技術をもとに新しい道を目指すといったケースです。目的意識が本学類の教育内容にマッチすれば、これ以外のケースでも何も問題はありません。

Q. 受験資格について

A. 高等専門学校・短期大学の卒業見込み者、大学での2年以上の教育を受けた者を対象にしています。詳細については[募集要項](#)(p.14～15)をごらんください。

II. 編入試験

Q. 編入試験について

A. 願書提出は6月3日(金)～9日(木)(郵送のみ)、試験は7月16日(土)、合格発表は7月27日(水)、入学手続きは9月5日(月)～7日(水)です。編入試験は、いわゆるAO方式で、志望する主専攻に関係なく得点の上位から合格とします。

Q. 試験科目

A. 試験科目は「面接・口述試験」のみで、ひとりあたり約30分です。

Q. 試験内容

A. 出願書類のひとつとして、学習計画書を提出していただきます。面接・口述試験では、10分程度でこれまでの学習内容、志望の動機、これからの学習計画などを説明して頂きます。残りの約20分で試験員からの質問に答えて頂きます。

Q. 面接・口述試験について

A. 学習計画書のほかに、面接・口述試験の際に、別途、配布物を用意していただいても構いません(その際は3部をご用意ください)。また、パソコンによるプレゼンテーションを行っていただいても構いません。パソコンおよびバッテリー(充電済み)はご自身で用意してください。プロジェクタおよびVGAケーブルはこちらで用意しています。

また、黒板を利用していただいても結構です。パソコン以外のビデオ再生器やOHP(オーバーヘッドプロジェクタ)は用意しません。受験の際に使用できる機器については、受験票に同封してお送りしますのでそちらをご確認ください。

Q. 学習計画書について

A. A4サイズで所定の表紙をつける以外の条件はありません。枚数・文字数・形式などは自由です。ただし、出願用の封筒のサイズ・厚さに収まる程度にまとめてください。詳細については[募集要項](#)をごらんください。

学習計画書はかならず自分自身で作成してください。

また、学習計画書の内容は編入試験受験時のもので、入学後に計画を変更しても差し支えありません。

Q. 社会人特別選抜はあるか？

A. 編入試験はいわゆるAO方式なので、社会人の方でも無理なく受験できると考えています。

III. 単位認定

Q. 単位認定について

A. 単位認定は入学前に履修した単位を、筑波大学の開設科目を履修したものと同等と認められる場合に、卒業要件に算入できるという制度です。筑波大学が現に開設している授業科目とおおむね一致した内容であることが認定の前提です。単位の有無のみが問題で、その成績はAでもCでも関係ありません。筑波大学の授業科目と対応づける際には、1対1だけでなく m 対 n (m, n は科目数)の組み合わせが可能で、筑波大学の科目の単位数が卒業要件に算入されます。ただし、実際に修得した以上の単位数は認定できません。

一般的なケースでは、共通科目、専門基礎科目(選択、必修)などを中心に60単位ほどを認定できるものと考えています。卒業には、卒業研究6単位を含む専門科目40単位と、専門基礎科目9単位(知識情報概論、知識情報演習I, II, IIIなど)を含めた70単位弱の履修が必要です。

資格取得のためには特定の科目を筑波大学で実際に受講して単位を修得しなければならず、単位認定では資格要件を満たすことはできません。教職や司書などを目指す場合は、資格要件として必要な科目は、認定可能であってもあえて認定せずに履修する必要があることも注意してください。

IV. 卒業までの流れ

Q. 主専攻

A. 編入試験の合格者は希望する主専攻(知識科学、知識情報システム、情報資源経営のいずれか)に入れます。1・2年次の科目を履修する必要があること以外、1年次から在学している3年生と扱いに違いはありません。

Q. 科目履修について

A. 標準的な履修プランでは、共通科目と専門基礎科目(1-2年生の科目)で単位認定されなかった科目と専門科目あわせて45単位ほどを編入した年に履修し、残りを4年次で履修します。なお、筑波大学では1年間に履修申告できる単位数が制限されており、上限は編入した年が55単位、次の年は45単位(成績優秀者は55単位まで)となっています。

必修科目の単位を取り損なった場合、それは4年次で履修することになり、同じコマに開講される専門科目が履修できないなど、かなりの不都合が生じます。

Q. 卒業研究について

A. 卒業研究の研究室配属手続きを3年次11月頃に行い、12月からは研究室に分かれて「プレ卒研」を始めます。配属できる研究室は、基本的に、自分の所属する主専攻の教員の中から選ぶことになります。卒業研究テーマの例は、[知識情報・図書館学類](#)のウェブサイトをご覧ください。

4年次に卒業研究に着手するためには、3年次末までに(編入学後1年間)卒業に必要な単位を90単位以上取得する必要があります。編入生の場合、約60単位が単位認定されるとすると、編入学した年度に約30単位以上を取得する必要があります。

Q. 資格について

A. 卒業までの2年間でも司書、司書教諭に必要な単位の取得は可能です。司書教諭の資格の前提として教員免許状が必要ですが、教員免許状(中学社会・中学数学・高校情報・高校公民・高校数学)の取得のため、教職科目を履修し、教育実習までを2年間でこなすことはほぼ不可能です。したがって、実際に司書教諭の資格が取得できるのは、すでに教員免許状を持っているか、編入学までに教職科目の大半を履修している人に限定されます。

Q. 進学・就職について

A. [学類パンフレット](#)をご覧ください。

Q. 学生生活について

A. 各人各様だと思います。単位数に比例した忙しさというより、色々なことを2年間で慌ただしくこなすという点に苦労があるようです。いっぽう卒業時には、達成感もひとしおのようです。

学生宿舎への入居、サークル活動、バイト等々については、学類パンフレットをご覧ください。

また、例年、筑波大学にできるだけ早く慣れていただけるように、年度当初に、学生有志が、新入生歓迎会や3年次編入生歓迎会などを催してくれています。

Q. カリキュラムの詳細について

A. 知識情報・図書館学類のウェブサイト、ならびに、学類[パンフレット](#)をご覧ください。

Q. カリキュラムの内容は将来的にはどのような分野で使う知識なのか

A. 知識情報・図書館学類での教育内容は多岐にわたります。たとえば、データベースについての科目もあれば、古文書についての科目もあります。これらの内容は特定の分野だけで使われるものではなく、広く一般に使われるものです。したがって、カリキュラムの内容は将来的にひとつの分野に限定される内容にはなっていません。

Q. どこに重点を置いて図書館学を研究しているのか。また、これからの図書館のあり方・方向性について

A. 筑波大学では図書館学、図書館情報学と呼ばれてきた学問領域を、インターネット上で多くの知識や情報を得ることができるようになった現代社会を支える総合的な学問領域として拡張・再構築することをめざしています。これからの社会でも伝統的な図書館や図書館サービスがなくなることはありませんが、図書館の姿はさまざまに変わって行くでしょう。卒業生が活躍する場は図書館に限らず、情報や知識を蓄積し、活用しようとするあらゆる場所に広がっています。

(2016/ 4/20)